名電高新聞

編集兼発行
名電高新聞部
印刷所
共生印刷株式会社

校訓
誠実
勤勉

燈下親しむとき

学校長　後藤　淳

学校行事の圧巻である本年度学校祭が、天候のため運動会は延期したものの、生徒諸君の全面的積極参加と、生徒会役員の周到な計画と、先生方の助言とによって運営され、年をおって盛大に、学校祭にふさわしい望まれる姿をもって、多くの成果を収めましたことは、よろこびに堪えません。

肥馬高天の好季節をむかえ、学校祭を一つの節として、気分を転換。勉学とスポーツに、青春をかける情熱をもやして、高校生活の三ヶ年を意義あるものとしていただきたいと希望します。

時あたかもみのりの秋、収穫のときです。生徒諸君も、自然の摂理に適応し、各自がみのり多い秋としていただきたいと思います。

スポーツにおいては、国民体育大会をはじめ、各種競技大会において、総仕上げの時機です。

また、吹奏楽部は全国大会をひかえ、スポーツ・文芸両面に、平素練磨の実力を充分に発揮し、記録への挑戦を期待いたします。

勉学においても、この好季節に一段の飛躍を遂げ、一段と充実した秋となる様殊に三年生の諸君にとっては、就職・大学試験に対して、最大最後の努力をはらっていただく時機でもあります。

近来、社会問題とまでなりましたオートバイの暴走グループ等について、正しい判断と思慮をもち、道にはずれないように要望いたします。

「悔いない青春とは」、好まれる高校生像の規範の中にあって、自己の若い情熱を傾むけることと考えます。

勉学・スポーツの好シーズンを、生徒諸君がよき友を得、高校生活三ヶ年を充実したものとするため、ひたむきな努力をされるよう、重ねて希望いたします。

中国との架け橋

ようこそ！日中友好の船「明華号」

日中交流史上最大の六百六名もの訪日団が、五月九日の下関を皮切りに各地を訪問し、交流を深めた。

この訪日団は、「近代化達成に役立つことなら何でも学びたい。」という目的もあって、多方面に見識を広めた。殊に、名古屋には十六日朝寄港し、本校には午後三時過ぎ、中庭に到着し、吹奏楽部・運動部の歓迎の後、交歓レセプションが各会場で催された。会場となった愛和会館・喬徳館などでは、運動部による催しがなされた。また、中庭において吹奏楽部によるステージドリル演奏が行なわれた。

これからも日本と中国とのより親密な友好関係を継続していくために、本校が積極的に参加して、ピンポン外交以来の伝統ある交流を続けていかなくてはならない責務を感じた。

南京市電子工業考察団　来校

名古屋・南京の友好都市提携事業の第一陣として、また、日本の企業視察を目的とした、南京市内の電子計算機・電子学会などの技術者一行は、去る五月十八日から来日し、三十日本校を訪問した。一行は、一時過ぎ到着し、電子計算機室・授業参観・弱電工事実習や強電工作実習を見学した。

団長は、「どの訪問先でも熱烈な観迎を受けた。日本の企業は、常に新しい技術で効率的に新製品を作っており、驚いた。」と印象を語った。一行は、先生方との懇談会の後、吹奏楽部と運動クラブ員による歓迎を終えた。

その後、今後の日本との交流についての抱負を述べ、六月四日に離日した。

アメリカ遠征に行って

陸上競技部　G3E有田　哲治

私にとって今年の夏休みは、大変ハッピーなものでした。

滋賀で行われたインターハイ（男子五千M）で、四位に入賞。そして、日米ジュニア陸上競技大会の日本代表に選ばれました。

八月十三日、東京の品川プリンスホテルに、全国から選ばれた選手が集合。そこで一泊したのち、九月十四日成田空港から、ジャンボジェット機でアメリカに向けて出発。試合は、サンディエゴとロサンゼルスで行われ、観光としてシイーワールド・ディズニーランド・リトル東京・サンタモニカ・ハワイと、二週間にわたって行って来ました。

アメリカの印象としては、道路が広く、道にはゴミ一つ落ちておらず、きれいな街だと思いました。また、市街地では、公園・庭・墓地・大学校内の路上以外の空き地などと、至るところに芝生が植えられており、まるで緑のジュータンでも敷いてあるようでした。そこでは、裸足になりジョックする人、水着姿で日光浴する人、腰をおろして仲間たちと話をする人……等々大変なごやかな感じを受けました。

アメリカでの私たちの生活は、朝六時半起床。夜は十時就寝。あとは、食事の時間が決まっているだけで練習などはフリーでありました。午前中練習をして、午後は四・五人より集まって、買い物をしたり、食堂などで外人に話しかけたりして、大変楽しく過ごしました。

アメリカでの挨拶は、片方の手のひらを相手にみせるようにして、かるく上げ「ハーイ」とニッコリと微笑むのですが、はじめのうちは少しとまどったりしていたのですが、二・三日ぐらい過ぎると、こちらの方から「ハーイ」と挨拶するようになり（特に女性には）「アメリカに染まったなあ。」とみんなで笑ったこともありました。

アメリカでの生活は、見るもの、口にするもの、きくものと、みんな新鮮に感じられました。

また、アメリカ人との力の差、海外遠征での調整のむずかしさを、つくづく知らされました。そして、私自身にとってこの遠征は、競技生活などでプラスになると思います。

新しい発見

教諭　太田　道治

この世には偶然の出来事から、思わぬ方向に発展することがよくある。先日もK先生の机の上の本をなんとなく開いてみたら、次のような個所に出合った。黄のマジックで線が引いてあったので特に目についた。

扇谷は「生活の中での3の原則」として、われわれの日常生活の中に3という数が非常に多く現われると説明する。ミュージック・ボックスの一曲は三分間、ボクシングのワン・ラウンドが三分間、電話の一通話が三分間。さらに、天・地・人とか序・破・急といった用語、三種の神器・三大節・三傑など例は多い。そして扇谷は文章にも3という数が大事だとして、

どんな短い文章でも、けっきょくは、三分節よ。三分節、三分節が積み重なって長編小説になるの。

という宇野千代の言葉などを引いて、くわしく説明している。（註1）

なるほど言われてみると日常生活の中で三という数が意外と多い。昨年の秋結婚式に出席して、次のようなものに出会った。三々九度の盃、三方の上の梅干し、こぶ、するめの三品。三つ子の魂百まで。三日三月三年。石の上にも三年。腹帯一丈（約三・三米）。…等三はものの調和をとる基準になる数なのだろうか。生け花でも水盤の黄金分割点即ち約⅓のところから立てるのが一番とされている。以来三にまつわる記述が特に目につくようになった。

アメリカの宗教家ダン・カスターは Three way by which man arrive at knowledge の中で自己認識に達する三つの方法として、科学的方法、神秘的直観方法、哲学的方法を挙げ、これらの三つがほどよくコンビネイションされた時に、自己認識の満足した結果が得られるとしている。

又こんな話にも出会った。グリム童話の中の「寿命」である。昔、神がこの世を創造し、すべての生きものの寿命を三〇年ときめ、それぞれの動物にそれを言い渡した。ところが文句が出た。人間以外は長すぎるというのである。それで神はろばを十八年、犬は十二年、猿は十年とした。人間は短いというので、ろばの十八年、犬の十二年、猿の十年をそれぞれ足して七十年とした。この加えられた順序に注目したい。三十才から四十八才まではろばのように生き、六十までは犬のように、七十までは猿のように生きるというのである。特に四十八才は後程出て来る数と偶然に一致する。

次は末川博著「彼の歩んだ道」のまえがきにこう書いてある。

それは、私がずっと前から夢にいだいている「人生三分論からきているといってよい。

一日二十四時間を三分して八時間はねむり、八時間は働き、あとの八時間は自分のためにつかう。いちおうこれが今日の人間の生き方であるとし、これを人間の一生にあてはめて、かりに人生七十五年としたら、最初の二十五年は人の世話になって一人前の人間にしてもらう期間であり、次の二十五年は世のためというか、自分のためというか、とにかく働いて暮らす期間であり、あとの何年かは自分の好むところと適するところに従って消費することのできる期間であるとしてよかろう。世の中がこのようになれば結構だというのが、私の夢とする人生観であり社会観である。

こうした記述を読んだ後、私は新しい公式一生二十四時間説を生みだした。話がすこし大げさに聞こえるが、私にはそれほどうれしい発見だった。ある日自分の年令をなんとなく三で割ってみた。十六という数が出る。初めその数は、私が十六才であったらいいがという期待をこめた数でしかなかった。しかしそれでは満足がいかず、十六になにか意味がないかと色々と考えてみたが、結局思わしい結論が出なかった。半年が過ぎた。帰りにタイム・レコードを打った時、十六という数が出ているのに私ははっとした。十六時。それは一日の仕事が終った時間である。四十八才。ふとろばの話を思い出した。以来手当たり次第に人の年令を三で割ってみた。数学的な正確さはないにしても、その人の人生におけるだいたいの位置づけだけは確かめられた。一生を二十四時間として、自分の年令を三で割った数の時間が、その人の現在置かれているだいたいの位置なのである。ところが七十二才を越えている人はどうなるのか、よく聞かれるが、それには次のように答えることにしている。

また一から始まる。百才まで生きたいという願いをこめて。百を三で割ってみるといい。未来永劫に三が続く。それは生への人間の永遠に続く願いではないだろうか。

ところで卒業していく皆さんはどうか。十八を三で割ると六になる。朝の六時である。起きている人もあれば、まだ夢を見ている人もいる。これからが本当の生活である。現実と夢との落差の大きさに驚ろきながらも、夢を捨てることなく生き、生長してゆくのだ。卒業式とは英語でコメンスメントというが、ものをはじめるという意味。これから自覚した社会生活が始まることになる。お互に頑張ろう。

註1　板坂　元著　考える技術・書く技術

運動場開き

六月十六日、本校の春日井総合運動場において、開場記念の催しが行なわれた。開場記念式典ののち、記念競技会が開催された。

陸上競技では、県下ベスト3の中京高・名古屋学院高、そして本校陸上競技部との間に、トラック競技（千五百M・百十Mハードル・百M）とフィールド競技（走巾跳・砲丸投）が行なわれた。

また、野球では、静岡県の名門静岡商業高と本校野球部との間に、熱戦が繰り広げられた。

この総合運動場は、本校の陸上競技部の利用はもちろんのこと、野球部の合宿所でもあり、日夜、野球部員が血と汗と涙にまみれて、猛練習をしております。また、本校並びに付属中学校の運動会の会場としても利用され、三年生においては、一学期は電気科・電子科、二学期より機械科・普通科と、二時限続きの体育の授業にも利用しております。

つい最近には、テニスコートも出来上り、着々と総合運動場の整備がなされております。

電気工事士試験

昨年度十八名の合格者を出した電気工事士試験も本年度は筆記試験合格者五十三名に対し、東海電気工事社員研修所の永井秀夫先生の協力を得て四十三名の合格者を出した。合格率も八十一・一%と良い結果が得られました。

E3A　伊藤　聡・今西洋之介・小山内　博・加藤利幸・神谷勝徳・甲村　誠・酒井彰人・鈴浦良夫・田代恒彦・塚田淳二・平田　肇・平松一成・細野誠二・村上勝美・百瀬真一・吉田鉄也
E3B　小材浩一郎・星野哲也
E3C　小須賀浩志・平野　修
E3D　岩田憲佳・榊原　享
E3E　稲原豊隆・丹羽利幸
E3F　原田義之・宮木靖則
E3G　飯田幸雄・伊東純一郎・服部勝美
E3H　加賀一之・古賀善明・鈴木智博・中島寛晃・安井紀哉
M3D　土赤伸生
E2A　深川幹雄・水谷岳司
E2B　中條公平・村上順一・山田章司
E2F　森田　誠
E2G　山野和夫
R2B　黒田将盛

教育実習生とともに

六月二十二日、本校出身の教育実習生（光安哲人・坂口英治・山下裕司・小島恒保・中西良幸・加藤幸男・加藤明信・佐藤信広）の先輩方に、大いに語ってもらいました。

…今日は。早速ですが大学に入った目的や、入る前と入ってからの印象などをきかせて下さい。

山下 高校を出て、すぐに社会でやっていく自信がなかったから。入る前には、特にどういう所かという事は考えていなかったけれど、入ってみたら楽しかった。

光安 初めは、愛工大へ入るつもりだったけど、国語に関心を持っていたので奈良大学へ入った。

坂口 まず、自分を試してみたかったし、就職したくなかったから。ある程度クラブができて、勉強もできるし、自由な所だと感じた。

…次ぎに、名電高の今と昔について

山下 表面的に変わった。設備がよくなったよ。

坂口 見た目の汚なさがなくなった。

…授業中の態度はどうですか。

中西 正直言って、みんな死んでるよ。活気が全くない。勉強にでも何にでも、ファイトを持ってやれ、若いんだから。あれじゃ、おじんだよ、まるで。

山下 やっぱりファイトがないな。ただ、与えられたものをやっているだけ、という感じだ。

光安 活気が全くないなあ。

坂口 無気力。何かをやろうとする気がないからな。

小島 ぼくは、昔より真面目になったと思う。もっとも、ぼくが不真面目だったからそう見えるのかも知れない。

加藤明 服装は良くなった。でも、授業はうるさい。

佐藤 人間的で、親しみ深い生徒ばかりだ。しかし、授業は中学の延長だ。

…教師になりたいですか。また、なりたいとしたら名電高の教師にはどうですか。

佐藤 なるとしたら、製図の先生になりたい。やりがいはあると思う。

加藤明 なりたくない。

加藤幸 わからない。指導性ができたらやりたい。

小島 就職的にいえばやる。名電高は、将来性があるからやりたい。

坂口 ここは給料がいいから、やってみたい気はある。

光安 工業科でならやりたい。

山下 電気・電子課程をやりたい。しかし、高校の先生としてより、生徒の指導の方が大きいため、自信がない。〝不向きだと感じてきた。

中西 資格がない。生徒指導の比重の大きさや、性格的にむずかしい。

…教壇に初めて立った時の気持ちはどうでしたか。

佐藤 てれくさかった。

加藤明 教壇に立つ前に一番ドキドキした。

加藤幸 前の方しか見えず、声が出なかった。

小島 想像していたより、ましだった。

坂口 教える立場としての自覚、むずかしさを感じた。

光安 普段と同じような感じだった。しかし、言いたいこと、やりたいことができなかったのでくやしい。

山下 タイミングがむずかしく、言いたいことが言えなかった。

中西 あがらなかった。熱演してしまった。でも、一方通行で寂しかった。ぼくだけ熱演せずに、生徒諸君も熱演してほしい。

…ところで、先輩方の高校時代はどうでしたか。

中西 ぼくは、映画に狂った。そして、やりたいことは思い切ってやった。

小島 クラブに打ち込んだ。つらかった。今思い出しても、つらい思い出だけだ。

加藤幸 これと言ったことはなかった。少しステレオにこった。

坂口 今思えば、もっと何にでも熱中すればよかった。

光安 物理の時間に、国語の教科書を読んだりすることに没頭した。

山下 あのころは中途半端だった。今でもだけど。

…在学中、新聞部を知っていましたか。

一同 知っていた。

坂口 ぼくは、新聞を二枚持っていたよ。

…最後に、生徒に一言お願いします。

中西 若いんだから、何にでもどんどん熱中してほしい。

光安 何事にも、アカデミック（学究的）にとりくむ姿勢がほしい。

山下 高校時代に、何かやったなという手ごたえをつくってほしい。

中西 迷惑をかけなければ、何をしてもいいと思う。

山下 高校生活を、中途半端で終わらせないように。

坂口 遊びと勉強のけじめをしっかりとつけてほしい。

論説
「小説」のすすめ

今、僕たちの間で新聞を一字たりとも間違えずに読める人はまず数えるほどもいないだろう。ひょっとすると一人もいないかもしれない。これは日頃から文章に慣れていない人が多いせいだろう。慣れていなければそれだけに文章を読み、意味を理解することは困難になってくる。さらに文章をきちんと読むことができなければ、もちろん書くことも困難であるといえる。

日本人なら自分の国の言葉で話す事はできても、読むこと、書くことが出来なくてはいけない。

文章は苦手という人には逃げ腰にならず、まず読むということから文章を克服してほしい。それにはいろいろな療法があるけれども、ここで小説を取りあげてみると、これが意外に文章嫌いをなくしてくれる。小説には数多くの種類があって、人の好き嫌いがあったとしても中に、かならず自分が面白いと言い切れる本が見つかるはずだ。友人が読んで面白かった本を借りて読んでみるのもいいし、広告に〝話題独占〟とか〝ベストセラー〟とかで出ている本を買って来て読んでみるのもいい。最初のうちは読みにくくても、そのストーリー性の奇抜さや構成、人物の魅力など全てを含む話の面白さを一度味わってしまえば、続刊、同作者の既刊へと、どうしても手がのびてしまうくらい小説好きになってしまう。熱心な人になると一晩で2～3冊も読破してしまうほどである。

そうやって本と毎日をすごすようになると、その副作用として今度は自分が書いてみようという気にもなってくる。これは別に難かしいことではなく文章の息づかいやスタイル、といったこつさえつかんでしまえば誰にでもできる芸当なのである。文章が書けるようになれば自分の考えをまとめることが容易になり意見も正確に主張できるようになる。

文章を自分に対して、より大きな存在として迎えるならば、生活する上でプラスになるばかりか、その人間性にまで大きく干渉してくる。つまり、字は文章を作り、話を作り、発展を伴って人間を作るものである。

手近なものから親しんでいけて良き人間への第一歩が踏みだされるのなら、一冊の本というものは、まことしやかに貴重な国宝のようなものであるといえる。

新聞部交歓会
若宮商業高校

去る五月十二日、若宮商業高校新聞部員四名は、顧問の先生とともに本校を訪れた。互いに、学校のクラブや生活面のことなどを、約一時間半にわたり話し合った。

この若宮商業高校は、本校と異なり、女子が多く、例えば、一年生は男子が二十名（八クラス中二クラスが男女組）で、二年生は男子が四十名（八クラス中四クラスが男女組）だそうです。（若宮に行けばよかった）

また、クラブは、新聞部をはじめとして、珠算・事務機械・タイプなどの商業に関するクラブもあるそうです。特色としては、男子は文化クラブには入部できず、運動部にしか入部できないとのことです。

この若宮商業高校は、本校に比べて交通の便が非常に悪く、一時間に一本ぐらいしかバスがないので、現在、校内でも問題にとりあげ、市交通局に要望をしているとのことでした。

もっといろいろ聞きたいことがあったのですが、何となくみんな〝モジモジ、ソワソワ〟して、まるでお見合いでもしているようでした。今後は、これをステップに各校との交歓を盛んにしたいと思っております。

そして、生徒の皆さんに少しでも興味を持って読んでいただくために、部員一同ない知恵をしぼって、この学校新聞を発展させてゆく所存でおります。

シキシマパン
焼きたてのパン
ベイクショップ
合資会社　紅　扇
名・千種区上野町5丁目39番地
☎711-4434

ヨギソのパン
ヨギソ製菓株式会社
名古屋市昭和区川名本町1の10
TEL (751) 2858 2859

小塚写真館
名古屋市千種区田代町
地下鉄池下駅北 300m
〒466 TEL 751-5623

健康の環を世界に
広げる森永乳業……
毎日牛乳を飲んで
立派な身体を作りましょう
森永牛乳　玉木販売所
千種区上野町五の六五
TEL (711) 2235

全国高校総体成績

打倒!! 東海第一高

自転車競技部

昭和五十四年度のインターハイ自転車競技は、人員減少が大幅に行なわれた大会で、前年より二割参加者が少なかった。

我が名電高は、今年度ロードレースの出場権は、七年ぶりに失なったが、ピスト（競輪場で行なう競技）は昨年の4名から5名になり、予選においては、昨年より上回っての出場であった。

七月三十一日、会場の大津市（琵琶湖競輪場）へと張り切って出発。宿舎の近江神宮へ。

ところが、一つクラブを狂わすことがあった。それは、宿舎の神宮である。それもそのはず、この西大津という町には、まともな宿舎がなかった。それ故、なんの設備もないところへ泊めさせられた。まず一つには、大きな大きなヤブカである。これに血を吸われると二日は足が張れ上がる。二つめは、蒸し暑くて体が衰弱してしまった。なお、おまけがついて神主のお説教があり、正座をしなくてはならない。これは、自転車選手にとって一番、足を狂わす原因になったといってもよい。

八月一日、競輪場にて練習・車検。監督会議。八月二日、いよいよ待ちに待った試合だ。ピスト競技は、一万Mポイントレース・スクラッチレース・四千M速度競争・四千M個人追抜きが初日。千Mタイムトライアル決勝・四千M団体追抜き・スクラッチレースが二日目。三日目は決勝種目となっている。我が名電高は、スクラッチレースG3E犬塚徳一郎（鶴城中）一万MポイントレースE3B柳瀬伸二（春日井、知多中）四千M速度競争E3B石田伸夫（大治中）四千M個人追抜きG2F志垣英秋（尾張旭東中）千MタイムトライアルM2C立松栄作（富田中）四千M団体追抜き（大塚・志垣・石田・立松）

以上六種目に出場した。

柳瀬は、実によく健闘したが、予選で7位に終わり、決勝進出ならず。

石田も、あと一周でダウンしてしまい6位。決勝進出ならず。志垣も、始めの千Mを一位で来て、二千M以後でバテバテでダウン。34名中20位決勝進出ならず。

大塚は、一次予選を見事に勝ったのだが、場内放送により、内線突破で失格。（スクラッチレースは、敗者復活戦がある。）

初日の成績は、すべて負け試合。二日目の犬塚の敗者復活戦・立松の千Mタイムトライアル・四千M団体追抜きに全力を尽くすことになった。

宿舎には、中京・名城・岐阜の岐南工業・大垣工業・九州地区と島根の各二校が同じ神宮に泊っている。これらの学校のうち、二回戦に一種目でも進めたのは三校ぐらいで、元気はあるものの、張りがない感じが全体的に漂っていた。

二日目、曇天。今にも雨が降りだしそうだ。犬塚の敗者復活戦が始まる。犬塚はとんでもない相手にリードを許したが、最後に逆転勝ちした。立松は、いつもスタートが悪いのに、すばらしく早かったが、ここの競輪場は五百Mで、名古屋の競輪場は四百M。直線が長い勝負どころで、六月下旬から体調を崩した立松は、後半一気にダレて、入賞ならず。四千M団体追抜きでは、志垣がこの日に限り不調で、予想外に早くダレてしまい、三人で勝負を挑み、ベストタイムでゴールインしたが、結果は15位。惜しまれるレースであった。

犬塚は、二回戦で負けた。それというのも、団体戦が終わってすぐにレースがあり、回復していなかったためであった。二回戦の敗者復活戦では楽勝し、三次予選へと進んだ。ところが、クジ運が悪く、大敵と当たり、ゴールまで勝敗を持ちこんだが、50cmの差で負けた。この三次予選は、敗者復活戦はない。

この大会では、東海ブロック地区の東海第一高が優勝した。名電高としては、今後、打倒東海第一高で、選手一丸となって挑みたい。何年ぶりかの入賞種目がない大会であった。

準々決勝にて敗退

卓球部

第四十八回全国高等学校卓球選手権大会は、八月一日から六日まで、大阪市中央体育館において開催されました。出場選手は、

G3E天川直美（群馬新里中）
G3F長崎静男（尾西第三中）
G3E馬場　寧（守山東中）
R3B谷川徳泰（鬼崎中）
G2D増田　朗（新潟本丸中）
G2E駒井伸明（青森造道中）
G2B谷田好陽（兵庫東浦中）

の以上七名が参加しました。

○成績

学校対抗

第二回戦

本校四対一藤岡（栃木）

駒井・谷田　0—2　落合・小川
○増田2—1小川
○長崎2—1石川
○天川2—1落合
○馬場2—1中島
駒井　—　林
天川　—　中島

第三回戦

本校四対三淀川工（大阪）

駒井・谷田　0—2　後藤武・武本
○増田2—0後藤昭
○天川2—1後藤武
駒井1—2武本
○馬場2—0源
長崎0—2橋本
天川2—0源

第四回戦（準々決勝）

本校一対四東山（京都）

駒井・谷田　0　12—21　12—21　2　福田・萩原
増田　0　16—21　20—21　2　福田
天川　2　21—16　21—14　0　竹元
駒井　1　21—17　9—21　13—21　2　萩原（鹿実　鹿児島）
馬場　1　19—21　21—16　18—21　2　山内
長崎　—　宮木
天川　—　竹元

ダブルス

第一回戦

長崎・谷川　0—2　今野・斉藤（相工大付　神奈川）
天川・増田　2—0　石井・浅国（宮崎工　宮崎）

第二回戦

天川・増田　2—1　山田・奥田（北海道日大　北海道）

第三回戦

天川・増田　2—1　大谷・横井（新田　愛媛）

第四回戦（ランク決定戦）

天川・増田　0　16—21　15—21　2　平沢・丸田

シングルス

第一回戦

天川0—2丸山（近大福山　広島）
増田2—0益永（日田林工　大分）

第二回戦

増田2—0小川（藤岡　栃木）
長崎2—0井坂（相工大付　神奈川）

第三回戦

増田2—0打越（七尾工　石川）
長崎0—2池西（三田学園　兵庫）

第四回戦（ランク決定戦）

増田　1　21—18　15—21　16—21　2　佐藤（実践商　東京）

健闘!! 総合六位入賞

ウエイトリフティング部

昭和五十四年度インターハイ、ウエイトリフティング競技会は、八月二日から五日まで、兵庫県の明石市で開催されました。この街は、瀬戸内海に面し、恵まれた環境で、東経百三十五度子午線の通過する。日本標準時のある都市です。

八月二日開会式にひきつづき、52kg級の競技が行なわれました。本校よりM2D宮嶋浩行（名塚中）が出場しました。彼の体重は48kgで、52kg級では軽量の方です。自己のベスト記録は、スナッチが72.5kgで、ジャークは87.5kgです。まず最初はスナッチから始まりました。スタート重量は65kg。一本目、これを成功し、二本目の重量を70kgにしました。しかし、二本目、三本目と失敗してしまい、結局65kgにとどまりました。次ぎに、ジャーク競技が始まりました。スタート重量は82.5kg。しかし、スナッチ同様一本目は成功しましたが、二本目・三本目と失敗してしまい、トータル147.5kgに終わり彼としては不本意な成績にとどまりました。

八月三日は、56kg級と60kg級の競技が行なわれました。56kg級には、東海総体で優勝したE3E西田史朗（日進中）が出場しました。彼は、去年のインターハイで六位に入賞し、今年の優勝候補の一人でした。スナッチは、85kgからスタートしました。一本目は成功し二本目は90kgにあげ、調子よく成功しました。そして、三本目は92.5kgにあげました。ところが失敗に終わり、スナッチの記録で三位に入賞しました。ジャークのスタート重量は107.5kg。一本目は無難に成功しましたが、二本目・三本目112.5kgを失敗してしまい、優勝ののぞみが消えてしまいました。

しかしながら、総合四位に入賞し、団体得点で五点を取りました。

午後から、60kg級の競技が行なわれました。本校よりE2F熊崎正幸（長久手中）が出場しました。スナッチのスタート重量は87.5kg。一本目成功し、二本目は92.5kgとしましたが、失敗。三本目どうにか成功しました。ジャークは、110kgからスタートしました。一本目成功。二本目の115kgは、私達の目で見れば成功と思いましたが、審判の判定は失敗。三本目117.5kgとしましたが、残念ながら失敗。得点は三点。

八月四日は、67.5kg級と75kg級の競技が行なわれた。67.5kg級にE3G小池幸泰（日進中）が出場しました。スナッチのスタート重量は87.5kg。一本目・二本目を失敗し、三本目にようやく成功。ジャークは、100kgからスタートしました。彼は、ジャークが苦手ですが、一本目成功。二本目105kgとしましたが失敗し、三本目なんとか成功しました。

八月五日最終日は、82.5kg級と90kg級が行なわれました。82.5kg級に、M2D伊藤達久（一宮南部中）、M3D古田　誠（笈瀬中）の二名が出場しました。伊藤のスナッチスタート重量は90kg、古田は85kgでした。伊藤は、一本目成功。95kgにあげましたが、二本目・三本目失敗。古田は三本とも失敗してしまい、非常にくやしがっていました。また、ジャークも二人とも不調で、古田は、一本目110kg失敗。二本目成功。三本目115kg失敗。伊藤は、一本目105kg成功。二本目・三本目112.5kg失敗に終わりました。

結果、名電高は総合で四十一校中六位という好成績で幕を閉じました。

明日をめざして

フェンシング部

第25回全国高等学校フェンシング選手権大会は、八月二日から五日まで京都府立体育館において、百十二校、七百十四名の参加のもとに開催されました。

本校からは、E3C杉浦康夫（依佐美中）、R3A川津利章（宮中）、M2B三谷和昭（黄金中）、G2C大西優（神丘中）の四名が参加し結果はつぎのとおりでした。

フルーレ個人

川津　準々決勝プール3敗
杉浦　一回戦プール2敗

エペ個人

川津　一回戦プール2敗

サーブル個人

杉浦　準々決勝プール1勝2敗

学校対抗

二回戦対新潟高（新潟県）5勝3敗で勝
三回戦対松江工業高（島根県）4勝5敗で負

このように残念な結果で終ってしまいました。

また、八月二十六日に静岡県沼津市において、第34回国民体育大会の出場権を獲得するため、東海地区の四県リーグ戦に、杉浦、川津、三谷、大西の四選手で臨み結果は、対岐阜県選抜5勝4敗で勝、対三重県選抜5勝4敗で勝、対静岡県選抜3勝6敗で負。

このように勝点2の第二位ということで残念ながら四年連続国体出場は果せませんでした。

昭和五十五年度は今年以上の成績をあげるよう部員一同練習に励んでおります。

G3E有田哲治 日米ジュニアへ参加

陸上競技部

夏休み中の大会成績

○愛知県五種競技大会　7/24～25

百M
G3F中村敏郎（猿投台中）12秒0
M2D福島　洋（富木島中）12秒2
M1B服部孝徳（稲沢中）12秒4
G1A矢倉　保（大曽根中）11秒5

百十Mハードル
M2D福島　洋17秒2
M1B服部孝徳19秒4
G1A矢倉　保17秒2

四百M
M2D福島　洋55秒2
M1B服部孝徳57秒3
G1A矢倉　保53秒5

走高跳
M2D福島　洋1M50
M1B服部孝徳1M50
G1A矢倉　保1M60

砲丸投
M2D福島　洋8M74
M1B服部孝徳7M96
G1A矢倉　保8M64

○インターハイ（滋賀県）8/1～5

二百M
E3B佐々木竹男（蒲郡中）予選落ち23秒18

四百Mハードル
G3F中村敏郎7位56秒30

千五百M
G3E有田哲治（祖父江中）予選落ち4分07秒2

五千M
G3E有田哲治4位14分40秒5

ハンマー投
M3C坂口勝昭（桜田中）予選落ち53M52

円盤投
G2D宮嶋幸男（香山中）予選落ち記録なし

砲丸投
G2D宮嶋幸男　予選落ち記録なし
E2G山下弘幸（朝日丘中）予選落ち14M88

この結果、五千MのG3E有田哲治は、決勝4位という好成績で、日米ジュニア陸上競技大会遠征に参加できることとなり、八月十三日よりアメリカへ遠征しました。その成績は、

八月十八日サンディエゴ
五千M　3位14分59秒94
八月二十五日ロサンゼルス
五千M　4位15分10秒00

という成績でありました。

○ナイター陸上競技大会　8/11（豊田）

百M
E3B佐々木竹男11秒3
M3C今泉洋一（鶴城中）11秒4
G1A矢倉　保11秒3

四百M
G3F中村敏郎51秒4
G1A矢倉　保52秒4

四百Mリレー
M3C今泉洋一・E3B佐々木竹男・G3F中村敏郎・G1A矢倉　保2位43秒1

円盤投
G3E住田俊也（稲沢中）1位39M94
M3C坂口勝昭2位38M04

走幅跳
M2D福島　洋　記録なし

三千M
E1E石山喜代二（富田中）5位9分42秒6
G1A岡田夏来（神丘中）3位9分23秒9
G1E藤井広幸（鳴子台中）4位9分38秒0
E1I松本貴美（蒲郡中）9分50秒0
G1A内藤　剛（平和中）9分53秒0
G1A河合裕司（豊南中）9分53秒0

五千M
G3E有田哲治1位15分15秒2
R3A重　幸男2位15分15秒8
M3B堀田靖弘（木曽川中）4位15分36秒2
E3G国立幸伸（尾西第二中）5位15分46秒0
M3A水野一高（富田中）6位15分51秒6
G3A神谷　充（守山中）7位15分56秒0
E2F鈴村義明（朝日丘中）16分51秒0
G2C山本　鎮（岡崎東海中）17分57秒0
E2J中村勝志（猿投台中）18分16秒0

○第21回市民スポーツ祭8/11

百M
G1A矢倉　保2位11秒9
花本真悟（愛工大附中二年）4位12秒3

千五百M
E1E石山喜代二2位4分17秒6

四百Mリレー
M3C今泉洋一・E3B佐々木竹男・G3F中村敏郎・G1A矢倉　保1位44秒15

○一年生大会8/22

百M
R1B石塚和好（あずま中）予選落ち12秒5
M1B竹内　昭（乙川中）5位11秒8

二百M
G1A矢倉　保2位23秒4
G1A加藤正純（城山中）予選落ち27秒1

四百M
M1C熊沢浩志（日比津中）予選落ち60秒3
E1F小林伸幸（蟹江中）予選落ち58秒4

八百M
G1A岡田夏来3位2分09秒1
G1A内藤　剛予選落ち2分21秒2

三千M
E1E石山喜代二10分09秒2
G1E藤井広幸10分09秒1

四百Mリレー
M1B竹内　昭・G1A矢倉　保・M1B服部孝徳・E1F小林伸幸4位46秒70

千六百Mリレー
M1B竹内　昭・G1A矢倉　保・M1B服部孝徳・M1C熊沢浩志（日比津中）4分05秒7

走幅跳
M1B服部孝徳5M86

○第22回東海選手権大会　8/25～26（岐阜）

二百M
E3B佐々木竹男22秒5

四百Mハードル
G3F中村敏郎56秒5

四百Mリレー
M3C今泉洋一・E3B佐々木竹男・G3F中村敏郎・G1A矢倉　保43秒1

円盤投
G2D宮嶋幸男6位40M92

能代工高に惜敗

バスケットボール部

第三十二回全国高校バスケットボール選手権大会は、八月一日から七日まで、滋賀県は大津市において開催されました。

結果

8月1日　総合開会式
8月2日　第一回戦（滋賀県立GYM）AM10：30～
名電高　64（28—18　36—34）52　洛南高（京都）
8月3日　第二回戦（粟津中学校GYM）AM11：30～
名電高　56（28—28　28—24）52　仙台第一高（宮城）
8月4日　第三回戦（滋賀県立GYM）AM10：00～
名電高　57（27—47　30—40）87　能代工高（秋田）
最終結果　ベスト16位

戦評

今大会は、大津市で行なわれ、今年の我チームにとっては、春の中国遠征という機会を与えられ、選手一同、何とか最終的インターハイによい結果をと闘志を燃して練習に励んで望んだが、結果的にはベスト16位という不本意な成績で終った。ところで、今大会の組み合わせは昨年以上の苦しいブロックで、一回戦は、前年度優勝校京都洛南高校で、平均身長、182cmという大会No.4という高さ。また、伝統あるチームであり、最初から強敵チームと対戦したが、何とかこの難関を突破した。そして、2回戦は仙台第一高校だが、このチームはエントリー全員が三年生とあってまとまったチームであり、ゲーム内容では負けたが、ゲームには勝った。さて、第三回戦は最大の敵、春の全国大会優勝校また、今大会優勝候補No.1の能代工高と対戦した。このチームとは、昨年始めて対戦し、かってない、100点ゲーム、30点差で我チームが勝利を得ただけに、今年は能代にとって最大の敵となった。能代は、205cmの選手、そして2つのチームを持っており、結果的には昨年のお返しのような型になり30点差で敗れた。そして能代工高が優勝し、我チームも優勝校に敗れて悔いなしといった感じであるが、今後新たな気持ちで、努力・鍛練する所存です。

映画研究会発足

顧問　樋口　悦也先生

本校に映画研究会が発足して一年が過ぎ、最近は、ようやく活動も軌道に乗り、楽しいサークルとして着実に発展しています。

数多くある本校のクラブの中でも映画研究会は、まったくユニークな存在であり、有意義でしかも愉快な活動をしています。

ところでみなさんは、つい数年前まで映画界が不振をかこち、低迷していたのをよく御存知のことと思います。その原因は一体、何だったのでしょうか。ある人はテレビのせいだといい、またある人は大衆の娯楽に対する志向の変化だと指摘しましたが、本当の原因はよい映画が少なかったからだと私たちは考えます。

大衆の期待に応えるような秀作や佳作が乏しかった結果です。二・三年前の『ロッキー』や『八甲田山』また今年の『あゝ野麦峠』や『チャンプ』などは大変な観客を動員し、人々に新鮮な感動を与えました。また非常に古い作品の中にも、いつまでも人々の心をとらえ、いまだに世界のどこかで上映されているといったものもあります。『風と共に去りぬ』『サウンドオブミュージック』、『ウェストサイド物語』などがそうですね。

みなさん、私たちのこの映研で、映画を語り、人生を語り、自分をより深くみつめ、人格向上につとめませんか。

私たちの活動の一部を紹介しますと、新作映画が発表されますと、他校の映研部と合同してその試写を観て批評を出し合い特選扱いにするか、ただの推薦にするか、というようなことも決めていますが、この試写会鑑賞は、私たちの大きな楽しみの一つです。

ぜひ、映画に関心と興味をお持ちの人は来て下さい。みなさんの活動分野は、いっぱいあります。

入会を希望する人は、普通科、樋口先生まで申し込んで下さい。

落語同好会発足

顧問　杉浦　滋先生

落語同好会の昨今

二年ほど前に落語に関心を持っていた者が集まって練習したのがきっかけで、本年落語同好会が発足しました。最初の頃は、興味があるだけで、落語に関する知識がなくてこまっていましたが、一人のコーチを紹介されたことで、大きな助けになりました。このコーチから落語を習い、老人ホームの訪問や、大学寄席の前座に出していただいたりしたものです。

さて、落語同好会の練習を御紹介したいと思います。落語にとって大切な三つの要素がありますが、それは一に『声』、二に『間』、三に『話し方』です。まず落語を志す人の最初の課題が声を出すことで、それも単に声を出すのではなく、客に伝わるように、大きな声でハッキリと発声できるように練習します。次ぎに簡単な小噺で基礎をみっちりたたきこみます。その小噺を少し楽しんで下さい。

この小噺は『さんぽう』といって、けちんぼう・どろぼう・つんぼの三つを題材にしたものです。

『けちんぼう』

A　定吉や！定吉！
B　へい。
A　今から、このクギを打ちたいんだが、隣へ行って、金づちを借りてきておくれ。
B　へい。

B　いってまいりました。
A　どうだった？
B　へい。隣へいきましたところ、鉄のクギか、木のクギかと聞かれたものですから、たぶん鉄のクギでしょうと申しましたら、鉄と鉄とがすれあって、金づちがへるといけねえから貸さねえと言われました。
A　なんだって！しみったれた野郎じゃあないか。あんな奴に借りることたあねえ。家のを出して使いな。

こうした小噺を練習してから、一席の噺をすることになります。

ところで噺をする機会の中で老人ホームの慰問がありますが、大勢の御老人が熱心に聞いて下いますし、「今度はいつ来るんかね？」などと言われたりします。そんな時、私たちは訪問してよかったという気持ちとともに、これからも一所懸命に練習して、すばらしい落語を聞いていただこうと思うのです。

甲子園への道遠く

野球部

春日井総合運動場に、野球部待望の球場ができ、六月十六日に球場開きを行なうことができました。概要は、両翼91メートル、中堅115メートルという広さで、外野フェンスとバックネットが完成し、ベンチの設備も整いました。この球場は、愛知県高校野球の本拠地熱田球場と同じサイズで、県下でも指折りの立派なものです。

後藤　淳校長先生の始球式で始まった招待試合には、静岡県の名門静岡商業高校を招き、球場開きにふさわしい試合内容で、完成を祝うことができました。この恵まれた設備の中で、野球部総勢51名は、全員規律正しい合宿生活を送りながら、毎日練習に励んでいます。

顧みると、春の大会ではベスト4、夏の甲子園大会では、県大会準優勝、秋の新人戦ではベスト8の成績でした。いろいろ御声援ありがとうございました。

今春よりの練習試合・公式試合の記録を記しておきます。

© 朝日新聞社

◎名古屋地区予選一次リーグ

名電9×1長久手（七回コールド）
名電10×0守山（七回コールド）
名電11×0南山（六回コールド）
名電0×10中京（五回コールド）

◎愛知県大会

名電11×2尾北（七回コールド）
名電6×5碧南工
名電5×3福江
名電4×5大府

◎練習試合

名電6×2春日井商
名電1×2東海大工（静岡）
名電12×7東海大工（静岡）
名電13×8福江
名電7×10福江
名電4×2浜松商（静岡）
名電5×1浜松商（静岡）
名電5×1美濃加茂（岐阜）
名電4×5土岐商（岐阜）
名電10×1中津商（岐阜）
名電6×1中津商（岐阜）
名電3×2豊明
名電2×6比叡山（滋賀）
名電7×4比叡山（滋賀）
名電5×1瑞浪（岐阜）
名電4×5岐阜第一（岐阜）
名電5×3掛川西（静岡）
名電0×0掛川西（静岡）

◎球場開き

名電3×3静岡商（静岡）

◎練習試合

名電0×2横浜（神奈川）
名電5×4横浜（神奈川）
名電3×6豊川
名電9×0伊那北（長野）
名電9×7伊那北（長野）
名電8×2浜松北（静岡）
名電5×2三ケ日（静岡）

◎夏の県予選

二回戦

向陽	0	0	0	0	0	0
名電	3	5	1	1	×	10

（五回コールド）

三回戦

東邦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
名電	0	0	0	0	0	0	0	1	×	1

対東邦戦

夏の大会三回戦の相手と決まった時、選手達は最高の相手だと燃えた。一昨年の優勝戦のおかえしをするのだと、〝打倒坂本〟を相言葉に、猛練習に励みました。当日、メンバーの交換で、先発は諸戸投手とわかった時は、何だか肩すかしをくった気がしたのですが試合は土川・諸戸両投手の好投で、緊迫したゲームでした。両チームとも、たびたび走者を出しながら、チャンスをものにできず、八回、絶妙な三塁線バント安打を決めた大村を、2ストライク2ボールより、目のさめるような右中間を破る加藤の貴重な三塁打で1点をあげ、今大会最高のピッチングをした土川は、持ち前のシュートボールがさえ、東邦を散発四安打に抑えた。坂本投手は、八回裏戸田にたった三球投げたのみで、高校生活最後のマウンドになった。できれば、全員が対戦してみたかったというのが、選手達の声でした。

四回線

起工	0	0	0	0	0	0	2	0	2
名電	1	0	3	2	1	0	1	1	9

（八回コールド）

五回戦

豊田西	0	0	0	0	0	0	0
名電	1	0	1	0	5	0	7

（七回コールド）

準々決勝

大府	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
名電	1	1	0	2	0	0	0	0	×	4

準決勝

名電	2	0	2	6	5	1	1	0	0	17
刈谷	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

決勝

名電	0	0	2	0	0	0	1	0	0	3
中京	1	0	1	1	0	0	0	3	×	6

対中京戦

昨秋より四度戦い、二勝二敗で、お互いに負けられない一戦は、夢にまでみた甲子園出場をかけた決勝戦だった。土川・所両投手の先発で、一回裏意表をついたドラッグバンドが成功し、加藤・浅野の連打で先行されたが、三回表に土川四球盗塁の後、山下がセンター前安打、大村のスクイズバントで一点、都築のレフト前安打・鴻野のレフト前安打で二点目。その裏、中京は安打二本で同点。四回裏四球、盗塁の後、センター前安打で加点。五回・六回・七回相方0。八回表名電は、大村センター前安打、都築がバントで送った後、鴻野がセンター前に安打し同点とし、その後加藤四球、一塁二塁のランナーを置いて戸田の一打がレフト頭上を襲い、やったと思った瞬間、左翼手の超ファインプレーにはばまれ、突き放すことが出来ず、力尽き、その裏三点を失ない、甲子園への夢が破れた。

新チームのメンバー

E2B日下部毅（富士松中）
E2B吉見則行（蒲郡中）
E2D今野武晴（安城北中）
E2D高橋美裕（豊明中）
E2D藤城博之（三谷中）
E2D間瀬英樹（西尾中）
M2D稲垣静男（矢作中）
G2A鈴木伸和（二川中）
G2B原田嘉弘（知立中）
G2B宇野行雄（葵　中）
G2B小味伸之（名南中）
G2B土井英俊（甚目寺中）
G2B浜名　稔（久方中）
G2B浜本康一郎（竜北中）
E1F中村　稔（竜北中）
G1B山本幸二（豊明中）
G1B工藤公康（久方中）
G1E中井宣行（大江中）

◎新チーム練習試合

名電7×0豊明
名電3×3川根（静岡）
名電4×5丸岡商（富山）
名電10×0丸岡商（富山）
名電1×1土岐商（岐阜）
名電2×3掛川西（静岡）
名電13×2掛川西（静岡）

◎名古屋地区予選

名電11×0西陵
名電10×3南陽
名電8×0緑ヶ丘商
名電8×3春日井商

◎二次リーグ

名電6×0春日井西
名電8×2同朋
名電8×2昭和

◎名古屋市決勝戦

名電3×9中京

◎県大会

名電2×0大府
名電1×0福江
名電2×5享栄

「山の家」合宿

無線部

八月四日から六日まで、ぼくたち名電高アマチュア無線部は、顧問の石川聡先生を筆頭に、四日から五日にかけて行われるコンテストに参加するため、御岳山にある名電高山の家へ合宿に行きました。名電高からチャーターしたバスに揺られて、約四時間で山の家に到着しました。しかし、休む暇なく、すぐに機材を降ろし、第一回目の戦闘開始。重い機材と自分達の荷物を二階に運び、アンテナやタワーを組み立て始めるやいなや、雨が降りだし、雷が鳴る。雨は、かなり強く降った。しかし、コンテストを行うために、作業を休むわけにはいけません。周りにある木々に登り、木と木の間にアンテナを張る。屋根に登り、屋根と屋根の間にアンテナを張る。屋根の上にタワーを組立てる。曇りならまだしも、雨が降り、雷が鳴る。午後一時から五時まで、約四時間にわたる悪戦苦闘のすえ、すべての作業が終わりました。みんなドロだらけ。作業が終わり次第、風呂へ突撃。雨のために冷えた体を温めました。この時ほど、落ち着けた時間はありませんでした。しかし、午後九時の時報と共に、第二回目の戦闘開始。「HELO、CQ、CQ、CONTEST、コチラワ、JA2YBV」のことばで始まりました。約四時間バスに揺られ、雨の中での約四時間の作業で体が疲れきっているところへ、午後九時から次の日の午後三時までの十八時間起きていなければならない。まさに、「徹夜が来たりて、睡魔が襲う。」そのものです。しかし、大半の部員は、午前二時頃までにダウン。四、五名の者がガンバル。しかし、ダウンした部員の半分位の者が午前八時までに起きて再び戦闘開始。そして時間がたち、コンテスト終了約五分前にラジオのスイッチを入れる。あと三分、二分、一分、「ポーン」。午後三時の時報と共にコンテストは終了。と同時に機材の後方付けに掛かりました。やはり、組立てより解の方が早く約二時間で終了。そして、風呂に入り疲れを取り、後は自由行動

この合宿でのコンテストは、高校生活の中で一番の思い出となりました。できれば来年も、OBとして、合宿に参加したいと思っています。

カラープリント
当店のカラープリントは各メーカー現像所仕上げの
一級品で、なんと **35円** より各種
写真は10年～20年後の宝です
カメラ、8ミリ ズバリ **卸値**（特定品を除く）
証明用各種撮影・スピード写真も有ります
若水カメラ　名電高前　☎（711）1869

キハラ製図器
三角定規
曲線定規
T型定規
その他製図用具一式
コクヨノート一式
名古屋電気高等学校御指定
大附通商株式会社

名古屋牛乳
有限会社 **内藤乳業**
名古屋市東区大幸町5の46
TEL 代表（711）2848

辞書・参考書の専門店
名古屋電気学園指定書店　**正友館書店**
千種区鏡池通2－13　城山中学校南
TEL（751）2717